［た　よ　り］

千葉県支部だより

吉田豊彦

千葉県透析医会は，千葉県の透析医を囲む環境が当時それまで専制君主制に近い状況にあったなかで，その民主化を求め，有志により結成された経緯があります．というのも，当時千葉県はO氏の絶対的支配下にあり，彼の了承なしには何もできない状況でしたので，透析に関連する人達は，否応なしにO氏の意思の決定を仰ぐしか仕方のない有様でした．

しかし，時を経て全国的にもかつてのようなO氏の支配力が薄らぐ一方，日本透析医会も立派に活動できるような状況になってきていましたので，千葉県透析医会会則の中に，会員の資格として（社）日本透析医会並びに（社）千葉県医師会の会員であること，というしばりを入れ，昭和63年3月26日より発足することができました．

初代会長は小出桂三先生で，会設立当初の目的である千葉県の透析医の民主化に実に涙ぐましいご尽力を頂きました．それについては一々具体的に記述は致しませんが，今振り返ってみても驚嘆に値するものがありました．

小出会長の時代に，それまでの千葉県の透析の学術団体で，O氏の支配下にあった千葉県透析懇談会の民主化が始められ，千葉県血液浄化療法研究会を誕生させようとしましたが，選挙に全面敗北したO氏の納得が得られず，一時空白の時代が現出しました．

そういう中で，小出会長が転勤に伴い退職され，次期会長を横山健郎先生が引き継いでくれました．もともと横山先生は，小出会長を助けて民主化を熱心にすすめていましたので，会長になられてからも実に忍耐強く事業をすすめられ，ようやく昨年，千葉県の学術団体としての千葉県透析研究会を誕生させることに成功しました．新生千葉県透析研究会の役員には，O氏周囲の方々と民主化を推し進めた千葉県透析医会の幹部は一切加わらず，若い人達を中心に設立致しました．

このように，千葉県の透析医の民主化を誰一人傷つけることなく，面子を立てながら達成されたことは絶賛に値することだと思います．

千葉県透析医会発足以来その主な事業は，①千葉県災害時透析システムの設立，②感染性医療廃棄物対策，③ヘルス財団（腎バンクを含む）への協力，の3つがあげられます．

①の詳細については（社）日本透析医会雑誌に掲載されていますが，その後の動きとして重要なことが2つあります．1つは，皆様のご協力により千葉県で開発したシステムを中心としたものが，本年より全国的な災害対策になろうとしていること，そしてもう1つは昨年暮れに千葉県医師会の分科会として千葉県透析医会がようやく認められたことです．数多くある医会の中で，それまで分科会として認められていたのは，13分科会に限られていましたが，その中で本医会が災害時透析システムを充実させるためには，県医師会並びに行政の関与が絶対必要であると訴えていたところ，異例の早さでそれを認めていただけました．これにより名実ともに，千葉県の行政も参加した災害時透析システムが設立できることになったわけです．

②についても，日本透析医会雑誌に掲載されているとおりで，その後も鋭意活動が続けられています．

③について，千葉ヘルス財団設立当初より本医会が協力しています．そして，その腎部会会長には千葉県透析医会会長である横山先生がなされており，臓器移

千葉県透析医会副会長

植推進月間には役員も街頭運動を行っているところです.

また，毎年の総会時には特別講演を組んでいて，平成6年3月には現(社)日本透析医会会長の平澤由平先生にもご来臨いただきました.

千葉県透析医会の現役員は**表1**の通りで，今後も(社)日本透析医会の千葉県支部として，より一層充実したものに成長して行くものと思います.

表1　千葉県透析医会役員名簿

会　長	横山健郎（国立佐倉病院）
副会長	吉田豊彦（みはま病院）
幹　事	鈴木　満（東葛クリニック病院）
〃	入江康文（三愛記念病院）
〃	田島知行（市川クリニック）
〃	茅野嗣雄（玄々堂君津病院）
〃	服部義博（みはま病院）
〃	田畑陽一郎（東葉クリニック）
監　事	畠　亮（東京歯科大学市川総合病院）
〃	原　徹（原クリニック）
	現会員数55名